

# みどりの風

加茂市立石川小学校  
学校だより 通算325号  
(令和3年度 第5号)  
令和3年6月8日  
校長 山本 哲哉

(URL) <http://www.ginzado.ne.jp/~k-iskwj/> (E-mail) [k-iskwj@educet.plala.or.jp](mailto:k-iskwj@educet.plala.or.jp)

## 今年の全校読み聞かせは、あのお話・・

創立43年目の大運動会が無事終了しました。競技・応援・係の仕事など、子どもの活躍は本当に見事でした。詳しくは裏面(P2・P3)をご覧ください。保護者・地域の皆様からの多くのご協力に感謝申し上げます。大きな行事が終わり、今は学習にも力が入ってきています。また夏休みに向けた準備等も少しずつ始まります。6月の全校朝会では、本(読書)の魅力・面白さを話題にし、読み聞かせやクイズ本の紹介をしました。

今日は、本のお話をします。毎年この時期にどうして本のお話をするかと言うと、子どもたちにたくさんのお本を読んでもらおうという「読書週間」があるからです。春の「こどもの読書週間」が4/23～5/12、秋の「読書週間」が10/27～11/9の間です。本(読書)に親しんでいますか。

私は一人っ子で、家に帰ってもすることがあまりなかったこともあって、中学年くらいから本を読むようになりました。住んでいた街の図書館に行って本を借りていました。当時好きだったのは、「ホームズ」や「アルセーヌ・ルパン」。犯人を見つけたり謎を解明したりする内容に、どきどきしていました。大人になってからは、ここに紹介する本や絵本にも出会いました。

ところで、人は一生のうちどのくらい本を読めるのでしょうか。1年は365日。約52週あります。毎週1冊の本を小学校の6年間読み続けたら52×6で約310冊。もし50年続けたら52×50で約2600冊の本を読むことができます。週2冊読んだらその数は5200冊。本を読むと、宇宙にも、海の中にも、過去や未来の世界にも行くことができます。気持ちを考えたり想像したりする力も伸ばします。

校長先生はマンガも大好き。でもみんなにはマンガ以外の本も読む子になってほしいです。読書の魅力、想像する面白さを知ってほしい…。毎年行ってきた全校読み聞かせですが、エリック・カールさんの『だんまりこおろぎ』や『ごんぎつね』で有名な新美南吉さんの作品『あめ玉』を読んできました。今年は、今話題の『ふしぎ駄菓子屋銭天堂』の中のお話です。このシリーズは学校でも購入しました。今日は全部読む時間はないので、「あらすじ」と「本文」を交えて読みますね。では聞いてください。



### 【お話の前に】

『銭天堂』は不思議な駄菓子屋の名前。そこの女主人は紅子さん。年齢不詳で大きくふくよかな体つき。結いあげた真っ白い髪に真っ赤な口紅。古銭柄の赤紫色の着物が特徴。店に訪れる客の願いを察して、望みの駄菓子をすすめる。その駄菓子を買った人物が体験する奇妙でちょっと怖いお話。幸せになることも、不幸せになることも…。それは読んでのお楽しみ…。

### 《『ハンターバターサンド』というお話のあらすじ》

主人公は1年生の「陽太」。昆虫が大好き。放課後はいつも虫探し。捕まえた虫を見せてクラスのみなをびっくりさせたい…。

ある日の放課後、陽太は大きなショウリョウバッタに出くわす。目をぎらぎらさせながら獲物に近づく。「ま、待て!」。逃げられた。必死に追いかけていく。すると、いきなり木の陰から飛び出してきた虫網がそのバッタを捕まえた。クラスの仲間の「隆」だった。

### 《お話の途中(本文からの抜粋)》

「銭天堂へようこそ、幸運のお客さま」「銭天堂?」

(P4に続く)